



島根の地域医療

今回の紙面

- ◆地域医療最前線 NO. 26 《石原 晋》
- ◆看護師さんのページ NO. 6 《常角しのぶ》
- ◆研修医のページ NO. 11 《香川亮介》
- ◆自治医科大学訪問
- ◆地域医療視察ツアー参加者から
- ◆島根県からのお知らせ
- ◆その他



「何でも屋養成所」

公立邑智病院 院長 石原 晋



地
域
医
療
最
前
線

NO.26

邑智郡邑南町の於保知盆地

(おおちぼんち)は、中国山地の真ん中に桃源郷のように開

けた風光明媚な田園地帯です。東を仰

げば秀峰石見冠山(いわみかんざん)が気高く聳えています。縄文の昔から

盆地を鎮守し続けてきた霊峰と聞きます。西に振り向けば山姥伝説などで知

られる物の怪の棲み家、原山連山がでーんと鎮座しておわします。東西南北

どちらから訪ねても、山峡をくねくねと経由した挙句にたどり着くので、この盆地に入ったとたん、おおらかな

「気」に包まれるのを感じます。この地は山里としては珍しく、UターンばかりかIターンの人々が少なくないのだ

ですが、恐らくこの「気」に惹かれて住み着いてしまうのだと思います。何を隠そう、この私もそのUター

ンのひとりです。そうして、いわみ温泉の露天風呂で大の字に寝転んで、盆

地や四方の山々を眺め渡しては「広く、こくらく」などとだらしないつぶやいているというわけです。このお

おらかにしたおやかな盆地のほぼ中央部に公立邑智病院があります。

公立邑智病院は、昭和58年開設の石見町立邑南病院がその前身ですが、

さらに遡れば昭和27年創立の島根県立中野高原療養所がルーツなのだそうです。現在は邑智郡(人口2万4千人)

を構成する3町(邑南町、川本町、美郷町)が共同で運営する公立病院事務

組合が設置母体です。診療科目は内科、外科、小児科、泌尿器科、歯科、麻酔

科(以上、常勤)、整形外科、産婦人科、精神科、放射線科(以上、非常勤)の

10科で、常勤医師数は9名(含歯科医)、病床数は一般のみの98床です。

邑智郡内で唯一の急性期病院、救急告示施設です。

当院の理念は地域(邑智郡民)とともにあることです。常勤医師は個々の専門性に固執せず、できるだけ守備範

囲をひろげ、日常的医療(ありふれた病態)の8割をカバーすることで、医療が地域に身近なものであることを目指

します。守備範囲を広げる手段は、外科の手術を泌尿器科医が手伝い、泌

尿器科の透析を内科医が応援するなど、相互応援、相互指導体制に加え、

診療ガイドラインの活用、ICLS、

JATECなどの救急研修プログラムの恒常的実施などによる診療標準化の推進です。これにより、研修医など、若い医師に対して「総合医」としての幅広い教育、研修を提供することができ

ます。すなわち、当院の研修では、内科全般、簡単な外科的・整形外科的処

置、ペインクリニック、全身麻酔、慢性透析管理、蘇生処置などを広範に身に付けることができます。「何でも屋の

育成」、これが当院の研修の売りです。当院でカバーできない残り2割の部分

については、ネットワークとアクセスの強化で対応します。郡内のすべての

医療機関/介護事業者との協力補完体制の推進、隣接圏の中核病院(大田市

立、江津済生会、三次中央)との連携強化、さらに救命救急医療や高度先進

医療については浜田市、出雲市、広島市の救命センター/大学病院などへす

みやかにアクセスできるように、救急へり搬送や遠隔診療(telemedicine)な

どの体制整備を推進しています。

計画は緒に就いたばかりです。崩壊の嵐の只中にあるわが国の中山間地の

医療は、国任せ行政任せではどうにもなりません。地方の現場から新しい風

を起こしましょう。共に戦う熱い人材を求めます。



隠岐広域連合立隠岐病院

二階病棟師長 常角 しぶ

人口約一万七千、自然と人情豊かな隠岐の島町に私の勤務する隠岐広域連合立隠岐病院があります。12診療科、一般病床



110床、精神38床、感染症2床、計150床、透析ベッド13床を有し、「この島に住む、安心の医療」を基本理念に運営されています。

島民の皆様にとって身近で親しみやすい病院であるようにと、年6回発行される病院情報紙『まめなかの』（お元気ですかーの意味）は全戸に配布され、住民の皆様を対象とした『まめなかの講座』も定期的に開催されています。7月からは、地域の皆様の要望を把握し、また病院からも住民の皆様への情報提供を行うため『住民懇談会』の開催も予定しています。

私の勤務する病棟は9科55床の混合病棟です。病棟師長になってまだ1

年ですが、スタッフに助けってもらいながら毎日奮闘しています。

昨年4月に、昭和40年代から途切れることのなかった産婦人科医師派遣が中止となり、約半年間、島内での出産ができないという事態が生じ島は大きく揺れました。島でのお産の灯を消したくないという助産師の熱い思いが原動力となり、この4月に、助産科『あかり』を開設することができました。2名の助産師と家族に見守られながら、医療的処置のない自然分娩を行っています。

私は島を離れていましたが、早速4月1日には第1号のお産があり、お産の報告を受けた時の担当助産師の興奮と安堵の入り混じった声は忘れられません。赤ちゃんが誕生しており、お産したお母さん方からは、『次もここで産みたい』という嬉しい言葉も頂いています。

安全な分娩の提供に努めるため、週1回の産婦人科医師と小児科医師との合同カンファレンスは欠かすことのできないものとなっています。現在は、分娩できる対象者をローリスクの経産婦に限らせていただいています。その後はその枠を広げていくことが課題となっています。



また、外科手術も本格的に始動します。ますます活気にあふれた病棟になってきています。

100歳を超えるお年寄りから赤ちゃんで、入院される患者様の年齢層も幅広く、9科もの混合病棟であるため疾患も様々で、私たちも看護師に求められる知識や技術、人間性を高めるため日々研鑽しています。



のページ

NO. 1 1

大田市立病院

2年目研修医 香川 亮介



大田市立病院は島根県の中心に位置し、「和」と「誠意」と「奉仕」を理念として、この6月28日に世界遺産登録が決定した石見銀山遺跡をはじめ、歴史的・社会的伝統のある地域の医療の中核を担っています。

昨今、言われている「医師不足」は当院でも例外ではなく、日々の多忙な業務の傍らで我々研修医を指導くださる指導医の姿は、憧れにも似た尊敬の念を抱きます。研修内容も決して疎かではなく、充実した毎日を送らせていただいております。他科の垣根も低い

ため担当指導医だけでなく諸先輩方からも様々な事を教えていただいております。

また、コメディカルの皆様の献身的な仕事や熱心さには頭が下がります。スタッフ間での連携もスムーズに取るため患者様には安心した医療を提供することができています。

研究や高度最先端医療というよりはプライマリーケアなどの所謂、地域に密着した診療機能が中心であり、医師として忘れてはならない最も大切なスタイルを身近で触れ、実践できるところが特徴であるのかな、と感じております。

患者様は高齢の方が多く、100歳を越える方も珍しくはありません。そういった意味では高齢者社会における医療の先端を走っていると云っても過言ではなく、高齢者の方への診察を通して、「話」に耳を傾けるということ、不安を受け止めることなど、患者様から多くのことを学ばせていただいております。

この病院での研修も一年が経ちますが、毎日同じ日が来ることはなく、日々新たな課題が見つかり辟易することもあります。これからは常に緊張感と自信を持ち、絶え間なき勤勉さ・向上心を忘れずますます精進していきたいと思います。

自治医科大学訪問

～本県出身学生との意見交換～

六月六日（水）、栃木県下野市にある自治医科大学で島根県出身医学生との意見交換に行いました。これは、毎年、自治医科大学の担当課長会議に併せて行われているもので、各都道府県から担当者が出席し、学生寮の食堂で学生と意見を交わします。

現在、島根県出身者は男子九名、女子五名の十四名が在籍し、当日は全員が集まってくれました。学生と県担当者とは、ほとんど知らない者同士、みんな緊張気味の笑顔で意見交換会がスタート。ほどよく酔ったところで一人ずつ自己紹介しましたが、一年生からはじめたので、最初はちよつと面接のような雰囲気もただよっていました。



将来の島根の地域医療を担う自治医大生14名
学生生活を通し大きく成長することを期待します

勉強はさすがに忙しいようですが、それぞれに部活にも積極的に取り組み充実した学生生活を送っているように見えた。当日は、学生の視点でいろいろな意見・要望をもらいましたが、中でも六年生から「一人でも多くの後輩に医学の道へ進んでもらえるよう母校で語りたい。」と申し出てくれました。現在、自治医大生による医学部進学説明会の実施に向けて高校と調整しています。

【医療対策課 古瀬】

医師確保対策室事業報告

★18年度 8名の医師を招聘

(医師確保緊急対策事業)

昨年、医師確保対策室を新しく設置し、島根県で勤務していただける医師を求め、全国各地に出向き32名の医師と面談を実施してきました。その結果、八名の医師にきていただけることになりました。今年度も、既に二十名の医師と面談を行っています。

今年度、新たに取り組む医師確保対策事業のうち、女性医師の就業支援があります。

具体的には、キャリアアップや復職に向けての研修サポート体制の整備や、医療機関に対して、女性医師が育児休暇等を取得しやすいよう代替医師を雇

用するための財政的支援などを行ってまいります。【医療対策課 古瀬】



今年度の医師確保対策室のメンバーです。
よろしくお願いします。

○島根県での勤務を考えている県外医師を対象とし、昨年9月から開始した「しまねの地域医療視察ツアー」は、これまで12件の実績（19年6月末現在）を数えました。その中で既に関内での勤務することとなった先生も数名おられます。今回、5月にこの地域医療視察ツアーに参加した先生からの感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

地域医療視察ツアーに参加して

50代の関東在住の産婦人科医師です。隠岐のお産のニュースはネットでもよくみるので気にはしていたのですが、たまたま開いたMedical Tribuneの地域医療視察ツアーの記事を見て申

し込んでみました。休みは土日しか取れないため隠岐だけということで申し込みました。また、万一、荒天で船が欠航になって帰れないと困るので、比較的天候の落ち着いている5月に視察しました。

1日目は出雲空港に降り、出雲大社を少し見学、県立中央病院を外からながめた後、松江に向かい、木村医師確保対策室長との懇談で、隠岐での産科の現状等々をお伺いしました。

2日目は隠岐での滞在時間を考え、出雲から飛行機で隠岐へ渡りました。隠岐病院では院長先生、産婦人科の加藤先生その他の方々の出迎えを受け、お話しの後、院内を見学し、少し観光もさせていただき、帰りはフェリーで約2時間半、米子空港から羽田への飛行機で帰路につきましました。

担当の方も土日にもかかわらず、案内していただき、感謝しております。隠岐出身の方で、いろいろお話も聞けて参考になりました。隠岐での医療は、僻地ということもあり、みなさんで助け合って取り組まれているという印象を受けました。

隠岐から出雲や松江に行くのでも日帰りは厳しく、ましてや首都圏からは日帰りできないということを実感しました。住民が本土の病院に受診するのも泊まらなければ厳しいということ

もよくわかりましたし、高次医療機関への急患搬送も簡単ではありません。どこまで隠岐での医療を可能にするかという問題や医師確保の問題を考えると、陸続きの僻地よりもさらに離島の医療の難しさを痛感しました。

実は私が隠岐の医療に関心を強く持つようになったのは昨年から県立中央病院の産婦人科の先生方が交代で勤務しながら、2人体制を築かれていることを知ってからです。

自分の所属する医局の人事に最近かかわってきましたが、家庭の事情や体力的な問題でフルに働くのは厳しい人もおり、多種多様な働き方を工夫していかなければ、この産婦人科医不足を乗り越えられないと思っていた時でした。私自身も体力的に第一線の病院でフルに働くのは厳しく、そろそろ引退かなと思っております。ただ何とかもう少しお役に立てないかと地方での勤務も考えましたが、家庭の事情もあり難しい状況でした。

その折、隠岐での秋からの1週間交代の勤務体制を見たとき、「これだ！」、1週間交代なら手伝えると思ひ、やや興奮してしまいました。いわば、ワークシェアです。みんなで何とか都合をつけて成り立たせる方法です。よし隠岐に一度行ってみるぞと思っていたところに先の視察ツアーの記事を見たの

でした。さらに島根県のホームページを見てみると、僻地の医師のための代診制度など、いろいろと工夫されているのもよくわかりました。住民や雇側の発想の転換や工夫も必要です。地域医療を一人だけの医師に頼るのではなくて、志は持っているけどいろいろな事情でフルには僻地で働けない人も多種多様な勤務形態を考えて加わってもらい、みんなで僻地を支えていくのも一つの地域医療のあり方ではないかと思えました。長所短所もあるでしょうし、ワークシェアといっても現実問題医師が集まるかはわかりませんが、いろいろ考えていくことは必要でしょう。

この4月から加藤先生を中心として院内助産がはじまっていますが、順調に進んでいくことをお祈りしております。来年の隠岐の産婦人科の体制がどうなるかはわかりませんが、私自身の今後ともわかりませんが、機会があればお役に立ちたいと思っております。



第1回「しまね地域医療の会」の様子

「しまね地域医療の会」開催報告

5月19日、自治医科大学、(社)地域医療振興協会からの参加もいただき、今年度第1回「しまね地域医療の会」を開催しました。

「しまね地域医療の会」は、県内の地域医療機関等に勤務する医師が情報・意見交換を行う場で、年2回開催しています。

各圏域ごとに、地域医療の現状や課題等の報告があり、これに対し地域医療を守っていくための解決策など活発な議論がなされました。

今後も、この会を通じ、島根の地域医療を担う医師の交流の輪がさらに広がっていくことを期待しています。

【医療対策課 仕立】

医師確保対策室からのお知らせ

研修病院ガイドブック

▼平成19年度版、島根県内12の臨床研修指定病院ガイドブックを作成しました。ご希望の方は、医師確保対策室までご連絡ください。無料です。



ガイドブック

今後のイベントスケジュール

▼医学生地域医療実習

8月6日～24日 県下7地区にて(各地区日程は島根県ホームページをご覧ください)

▼高校生医療現場体験セミナー

(松江) 8月6日、松江赤十字病院
(出雲) 8月9日、県立中央病院
(浜田) 8月8日、浜田医療センター
(隠岐) 8月9日、隠岐病院

▼研修医意見交換会

9月29日 出雲ビッグハート

▼指導医講習会

11月2日～4日 島根大学医学部

▼WAMI視察

10月～11月(予定)

視察先 ハワイ大学、コロラド大学

島根の地域医療を支えていただく

お医者さんをご紹介ください!

あなたの知人、友人やご親戚など
島根県内で勤務していただける
医師をご紹介ください!

あなたのご協力が
島根の地域医療を支えます。



**ご紹介いただける場合は
ご本人の同意を得たうえ
医師確保対策室
までご連絡ください。**

※ご紹介いただいた情報は、島根県個人情報保護条例第2条に規定する「個人情報」として、条例の規定に基づき適正に管理するとともに目的外の利用はいたしません。

- 島根県では離島・中山間地域や産科、精神科など特定診療科での医師不足が深刻化しており、県民の生活を支える地域医療の維持が困難な状況になっています。
- 健康で安心して生活できることは全ての県民の願いであり、地域医療の充実は住み慣れた地域に定住するための基本条件です。
- 地域医療を支えるため、県民の皆様のご協力をお願いします。



〒690-8501 島根県松江市殿町1番地
島根県健康福祉部医療対策課 医師確保対策室
TEL:0852-22-6684 FAX:0852-22-6040
e-mail:iryuu@pref.shimane.lg.jp
URL <http://www.pref.shimane.lg.jp/iryotaisaku/>

県のドクターバンクから

●求人・求職取扱状況

(平成19年7月1日現在)

<求人> 26件

邑智郡(病院)／整形外科、精神科
浜田市(病院)／内科
出雲市(診療所)／胃腸科
邑智郡(病院)／内科、整形外科、在宅医療
鹿足郡(病院)／内科、外科
仁多郡(診療所)／内科
浜田市(診療所)／内科
鹿足郡(病院)／放射線科、内科、麻酔科
益田市(病院)／内科、循環器内科、神経内科、呼吸器内科
松江市(病院)／内科、麻酔科
浜田市(病院)／内科、放射線科
江津市(病院)／精神科
仁多郡(病院)／眼科、内科
松江市(その他)／不問
出雲市(病院)／内科
浜田市(その他)／内科
鹿足郡(病院)／整形外科、内科、リハビリテーション
松江市(病院)／内科、整形外科
邑智郡(病院)／内科、整形外科、産婦人科、放射線科
雲南市(病院)／麻酔科、精神科、内科、循環器内科、皮膚科
大田市(病院)／精神科、内科
大田市(診療所)／内科
雲南市(病院)／神経内科、腎臓(循環器)、外科
益田市(病院)精神科
安来市(病院)／内科
松江市(その他)／不問

<求職> 0件

●申し込み手続き及び詳細につきましては、当紹介所までお問い合わせ下さい。

[電話番号]0852-21-8813(専用電話)

[ホームページアドレス]

<http://www.shimane.med.or.jp/dcbank.htm>

【担当:塩田・嘉本】

島根の地域医療視察ツアー

参加者募集

島根県では、将来県内で勤務を考慮される医師やそのご家族を対象に地域医療の視察ツアーを開催しています。自然を余すことなく満喫できる島根の地で、実際にその目で町の雰囲気や病院、診療所を見てください。

**日程や視察コースは、ご希望に
応じますのでお気軽にご連絡
ください。**

○対象

◆将来島根県での勤務を考慮される県外の医師及びそのご家族。

○ツアーの費用

◆県の規程に基づき、原則2泊3日分(2名分)の旅費を県が負担します。

○申込方法など

◆参加希望の方は、お気軽に医療対策課医師確保対策室までご連絡ください。

※Eメールでの申し込みは島根県ホームページに「参加申請書」を載せていますので、ご利用ください。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryota/isaku/>

島根県は医師を求めています

島根県では、県内で勤務していただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、電話やメールでは相談しにくい、細やかな相談にも応じます。

お気軽に医師確保対策室までご連絡ください。

また、友人・知人に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、同意を得た上でご紹介ください。

ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内への就業を支援します。

連絡待って
ます。



個人情報、島根県個人情報保護条例に基づき適正に管理するとともに、目的以外の利用はいたしません。

『赤ひげバンク』の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせいただくと助かります。

編集後記

▼年金問題をはじめ、食肉偽装問題、地球温暖化?による異常気象など、不安に駆られるニュースが多い中、島根県では、6月28日に石見銀山の世界遺産登録のニュースが飛び込んできました。一度は見送られたかと思われただけに、地元大田市をはじめ関係者の方々の喜びはひとしおだったと思います。おめでとうございます。

▼6月17日、第2回隠岐の島ウルトラマラソン(100キロの部、50キロの部)が開催されました。島を挙げてのイベントのひとつでもあり、帰省を兼ねて観戦、応援してきました。過酷な気象条件の中、アップダウンのきついコースを走破したアスリートたちのゴールでの満面の表情は感動的でした。医師、医学生の参加もあり、その奮闘ぶりは次号で紹介します。お楽しみに。

▼いよいよ夏本番、本格的な猛暑はこれからです。体調管理をしっかり行い、夏バテなどせぬように! (S)

島根県医療対策課

医師確保対策室の連絡先

〒690-8501 松江市殿町1番地

E-mail:iryoutu@pref.shimane.lg.jp

TEL:0852-22-6684

FAX:0852-22-6040

ホームページ[島根の医療]

<http://www.pref.shimane.lg.jp/iryoutaisaku/>



